Y15a　すばる望遠鏡の見学者の推移

○林　左絵子、村井　里江子（国立天文台ハワイ観測所）

国立天文台ハワイ観測所では、2004 年 10 月よりインターネットを通じた予約による望遠鏡見学プログラムを催行し、2010 年度までに 5800 人を超える訪問者があった。研究・教育関係者、取材、関係機関による視察といった特別訪問の受け入れも合わせると、統計のある 1999 年以後から 2010 年度までに山麓施設に 9550 人、山頂施設（望遠鏡）に 18400 人が訪れ、職員によるご案内のもと、現場の様子を理解していただいている。

年度ごとの訪問者の推移を見ると、山頂の望遠鏡見学者は増加傾向が 2007 年度の約 2000 人をピークに止まり、現在は 1600 人前後で落ち着く傾向を見せている。2001 年の米国本土同時多発テロ、2003 年の SARS 大発生、2008 年のリーマン・ショック、2009 年の新型インフルエンザのように広い範囲に影響を与える大きな事件があると、ハワイまで研修・旅行に来る全体数が減るため、その影響を受けているようである。

一方、山麓施設の訪問者は初期の 1000 人前後のレベルから減少して現在は 500-600 人ほどである。当初は日本・地元からの視察といった訪問が多く、また地元の学校による社会科見学といったものもあった。2006 年２月、山麓施設の近くに生涯教育施設（イミロア天文センター）がオープンしたため、社会科見学がそちらに移った。日本からの教育機関のグループ訪問は続いている。

訪問者のうち、日本人の割合は山頂施設については６割で安定しているが、山麓施設は４割程度であったものが上昇傾向を示しつつある。地元対応としては出前講演・出前授業などを行っているため、地元の関心が減っているというわけではない。広報室全体として、認知度向上の努力を続けていきたい。